

徳島大学における図書館を活用した学修支援の取り組み

Study Support Space

はじめに

大学教育において、近年は学生の主体的な学修を促進することが強く叫ばれており、学修環境の整備も課題の1つとして挙げられる。このような背景のもと、大学附属図書館に学生の自学スペースやグループ学習を行うラーニング・コモンズを整備する大学が増加している。徳島大学でも2012年にラーニング・コモンズを設置した。さらに、2013年4月からは、図書館職員と学生が協力して、学生の学修相談に対応する取り組みをスタートさせた。本発表は、教員や大学院生の協力を得て、学生の学修相談を通して、学修に対する取り組み方を改善することを目的に設置したStudy Support Space (以下、SSS) の報告である。

徳島大学 総合科学部 1年 枝川 恵理
徳島大学 工学部 2年 斉藤くるみ
徳島大学 附属図書館 佐々木奈三江



←
SSSを実施している
「ピア・サポート
ルーム」
図書館1階

1.SSS企画チーム

<チームの理念>

大学生の日々の学修における躓きに対する学修支援、学修するために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学修スタイルの向上、改善を行う。

<メンバー>

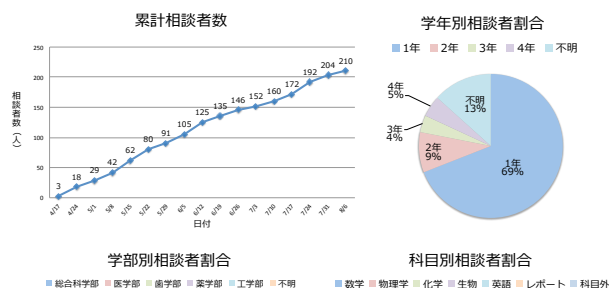
学生4名、教員1名、職員2名(2013年8月現在)

<沿革>

繋ぎcreate※に所属するチームとして2013年3月に発足。

※繋ぎcreateとは、徳島大学内でピア・サポート活動を行う学生・教職員によって構成された自主的なチームで、その中に複数の企画チームが存在する。詳細はパンフレット(別紙参考資料)参照のこと。

4.2013年の実績



2.Study Support Space

<目的>

教員・大学院生が学修アドバイザーとして、図書館で大学生の学修に関する相談に対応する。

<運営体制>

繋ぎcreate「SSS企画チーム」

<後援>

徳島大学附属図書館、全学共通教育センター、学務部教育企画室、学務部教育支援課

<実施場所>

図書館1Fピア・サポートルーム

<対応日時>

平日の14:00-19:00(うち4時間)

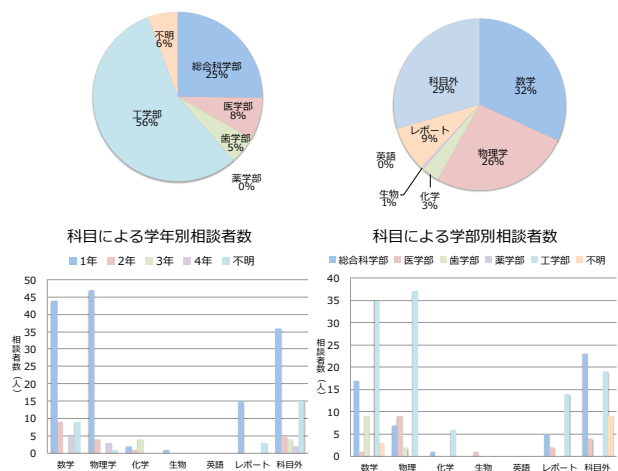
詳細は時間割(別紙)参照

<アドバイザー>

教員12名、大学院生2名(2013年前期)

<対応科目>

数学、物理、化学、生物、英語、レポートの書き方、他



3.SSSの業務内容

<SSS企画チームメンバーの業務内容>

- ・アドバイザーの候補検討・依頼
- ・アドバイザーとの情報交換・運営課題検討
- ・時間割の作成
- ・広報戦略の検討・広報活動
- ・相談者・相談内容のデータ管理
- ・ピア・サポートルームの美化
- ・SSSの効果検証

<アドバイザーの業務内容>

- ・相談者の学修相談に対応
- ・相談内容を「相談者管理シート※」に記入

※相談者管理シート(別紙)とは、アドバイザーが相談者の学部・学科・学年・相談内容などを記入するシートである。また、相談シートを通じてアドバイザーと企画メンバーが、運営上の課題等の情報交換を行っている。

5.まとめ

<相談者の傾向>

- ・1年生や、理系の基礎科目に対する相談者が多かった。
- ・学部別相談者の割合は、学部人数の割合と概ね一致した。ただし、医学部・薬学部の相談者数は少ない。
- ・レポートの書き方に関する質問は、1年生に集中していた。また、科目外の相談として、進路や学習の仕方に関する相談が多く見られた。
- ・期末試験期間においても相談者は通常通りであった。

<今後の課題>

- ・相談者がなかった科目について、その原因を調査する必要がある。
- ・学部学生により近い立場である大学院生のアドバイザーを増やす必要がある。
- ・リピーターが多くなっているが、利用していない学生に対してのアプローチが必要である。
- ・問題の解き方を教えるだけに留まらないような場にしていく必要がある。
- ・学生のニーズに合わせたアドバイザーの確保・時間割の設定・科目配置を考える必要がある。